

# Polaris

長町南小学校 第6学年通信

NO. 22

2020.5.29(金)

## 《子どもたちへ 「いよいよ来週 始業式」》

月曜日は、いよいよ、始業式。学校が再開します。

この日を待ちわびている人だけでなく、友達や先生と上手くやっていけるかな…、勉強についていけるかな…などと、不安に思っている人もいると思います。楽しいことをたくさんやって、不安を取り去っていきたいと思っています。

3か月間にわたって臨時休校だったので、無理せず、ゆるやかに進めていきます。

「やっぱり、友達っていいな。学校行くのって楽しいな。」

と思えるように…。

## 〈6月1日の始業式について〉

●登校時刻…8時から8時25分までの間です。

※下校時刻は11時30分（3時間授業です。給食はありません。）

●持ってくる物

- ランドセル マスク 水筒 筆記用具 感染症対応健康観察票
  - 宿題…◇生活記録カード◇理科ノート（理科プリントの「予想」について書き、ノートに貼る。）
  - 自主学习ノート・日記帳・俳句ノート・漢字スキルノート・計算スキルノートなど  
（進んで取り組んだ人だけで構いません。無理のないように取り組んでください。）
  - 保健調査票 心とからだの健康調査票 日本スポーツ振興センター同意書（印鑑を）
  - 児童調査票 緊急連絡カード 健康手帳 雑巾2枚（1枚は個別に使うので名前記入）
- 〔太字の物はまだ提出していない人〕

## 〈みんなの日記より〉

いよいよ始業式

私は、休校中、ほとんど家で過ごしていました。後半からは、料理をしてみたりしました。

時々、公園や家で友達と遊ぶのがとても楽しかったです。

来週から、学校が始まりますが、まだ、クラス全員と会ってないので、少し緊張しています。

これから、勉強もがんばり、友達ともたくさん遊びたいです。

全ては、これから始まります。臨時休校の3か月をプラスに生かしていきましょう。

## 「学校発」【ここから…の巻】

今日は、入学式や始業式の準備をしました。桜の季節ではなく、青葉茂れる初夏の中での入学式ですが、始業式とともに、いよいよスタートするのだ、という気持ちになりました。失われたものを取り戻すのではなく、新しいスタイルの学校、未来に向けてここからスタートです。

## 6年生 家庭での学習の進め方について その②③ 最終回 「歴史」編

来週の始業式から、学校が本格的にスタートすることにより、この学年通信による「臨時休校中の家庭での自力学習の進め方」についてのアドバイスも、今回は最終回ということになります。

最終回は、6年生になって初めて学習する社会の「歴史」にまつわる話を紹介したいと思います。

### 〈我慢した方が正義？〉

「けんかをした。殴った・殴られた。→悪いのはどっち？」

「お金が盗まれた・いや盗んでいない。→事実は何どっち？」

もめごとやトラブルが起こったとき、当事者どうしの話し合いで解決できない場合は、現代では「裁判」によって解決していきます。

現代の日本人と同じ様に、過去の日本人たちもトラブルや争いを繰り返してきました。特に、お米作りに関わる「水」や「土地」を争っての村どうしのトラブルが多かったようです。

さて、このように、集団対集団の争いが起こったら、どうやって解決したのでしょうか。

大きく分けると、3つに分かれます。

①神様のお告げや占いで解決する。→お告げ・占いの結果や、より神様に近づいた方が正義

②戦い(武力)によって解決する→勝った方が正義

③権力者の判断によって解決する。→権力者が決めたことが正義

今から400ほど前の日本では「火起請(ひぎしょう)」や「湯起請(ゆぎしょう)」と呼ばれる裁判(決着のつけ方)が行われていました。(分類①に当たります。)

どのように勝敗を決めるかという、争っている村どうしの代表が、神様の前で

※真っ赤に熱した鉄を素手で持ち、神棚まで持ち運べた方を勝ちと決める「火起請」

※熱湯の中にある石を素手で取り出し、やけどが少ない方を勝ちと決める「湯起請」

という決着のつけ方です。(私なら、どちらも絶対無理！)

負けた方は、神様の前で嘘をついたとして、処刑されたり、ひどい場合には手足をバラバラにされたりしました。勝った方も両手が火や湯でやけどになり、日常生活が送れなくなります。そのため、その代表者や代表者の家族を、村で責任を持って面倒をみていたようです。「火起請」は、全国各地で行われ、東北地方では、特に、修学旅行で行く会津地方で多く行われたと記録が残されています。(もちろん、今は、会津地方でも普通の裁判が行われていますよ…。念のため…。)

あまりにも残こくで犠牲が大きいとして、日本人は、数百年の時間をかけ、知恵を出し合って、今の「裁判」の仕方にたどり着いたわけです。もし、裁判の歴史が進歩せず、例えば、クラスで男女の対立が起こったときに「火起請」や「湯起請」で決着をつけるとしたら、ぞっとしますね。

今後、学校が再開すれば、楽しいことだけでなく、様々なトラブルも起こることでしょう。そのときには、冷静に話し合いで解決していきたいものです。

トラブルの解決方法1つとっても、このような長い歴史があります。これからの授業で、様々なことについて、人間の知恵の産物である歴史をしっかりと学んでいきましょう。